

牛は人間とは違い、寒い時でも寒さの用意もしないで、毛があるだけで、冬の寒中かぜもひかない。これは飼っている人間の力におよばない。鶏も山の鳥類、獣も同様である。みな、神がお守りくださっていることを悟るのが人間である。

……「天地は語る」第四十三節……

### 解説

人間は、季節に応じて衣服を調えたり、道具を用いて暖まったり涼んだりすることが出来ませんが、鳥や獣はそういったことは出来ません。

しかし不思議に彼らは季節に応じて、ちゃんと生きていくことが出来ています。

教祖様は「このことから、この世に生を享けた全てのものが夫々、生きてゆけるのは、神様がお守り下さっているからであることを悟れよ」と、仰せられるのであります。そうすれば「人間はどうして生まれ、どうして生きているか」が分かり「天地の理」が分かると仰せられています。私達信奉者一同、この教祖金光大神様の御思いに答える為にも一層信心の稽古に励み信心の成長のお蔭を頂きたいものであります。